

フリージャーナリスト 西谷文和

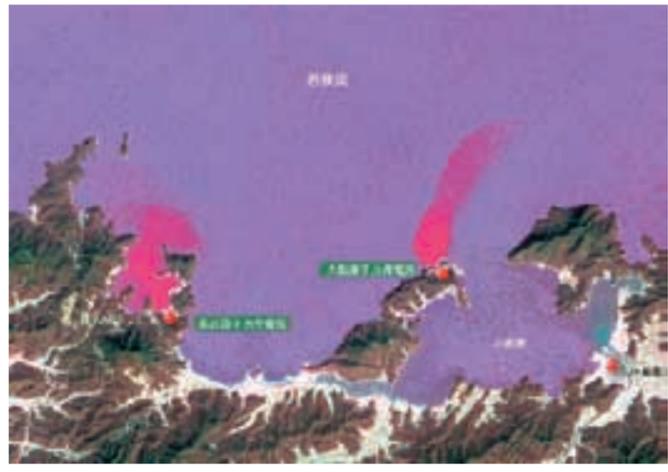
「地球温暖化の切り札」なのか

原発は地震が来たら壊れてしまふ、ということとは分かったけど、すぐに止めたら停電すると言われてるし、火力発電に切り替えたら、CO₂が出てしまふ。などと不安になってる方、だまされないようにしよう。「原発は地球温暖化の切り札」でもなんでもなく、むしろ「地球を温め続ける厄介な発電所」なのだ。以下、検証してみよう。

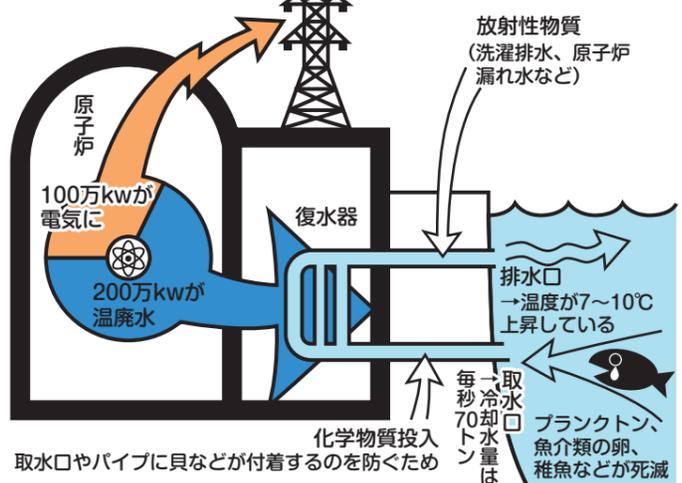
「海温め装置」

図①は福井県原発銀座から出る温排水で、若狭湾が温められている様子。原発は火力発電より熱効率が

図① 原発からの温排水で、温められる若狭湾



図② 原発は熱効率が悪く、エネルギーの3分の1しか電気にならない



悪く、出てくるエネルギーの3分の1しか電気にならない。残りの3分の2は熱になってしまふ。つまり原発を運転すれば原子炉が熱を持つので、炉を冷やし続けねばならない。今回の

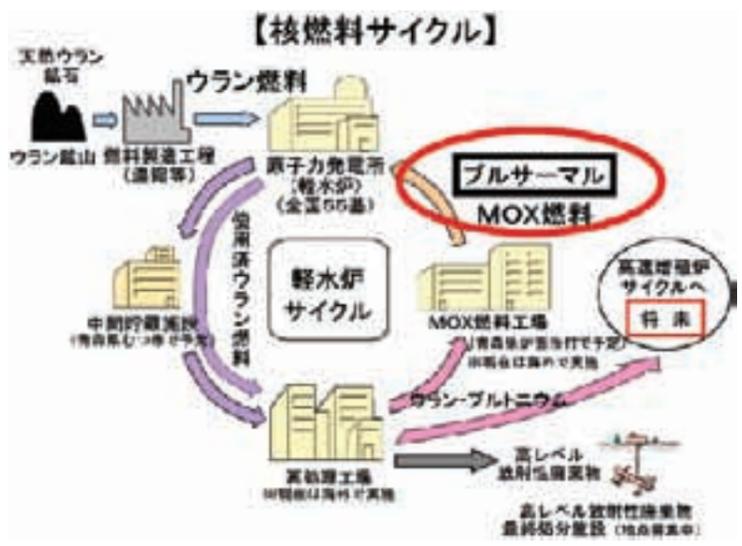
「使用済核燃料棒」

それだけではない。原発を運転すると必ず出てくるのが使用済み核燃料棒。いわゆる核のゴミ。死の灰である。今回の事故で明らかになったように、この使用済み核燃料棒は、放置すれば崩壊熱を出し、メルトダウンするので、原子炉建て屋の中の「使用済み燃料プール」で冷却し続けねばならない。

「六ヶ所村を地震が襲えば「日本は終わる」

青森県の六ヶ所村。ここでプルトニウムだけを取り行くか？
その期間は？
3年から5年。
3年から5年、冷却した使用済み核燃料棒はどこへ行くか？

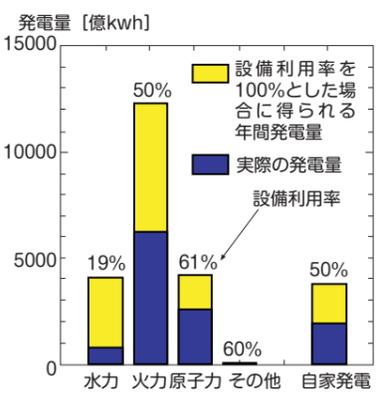
図③ 日本に最終処分場は、まだない



へ送られることになる。しかし、日本には、まだその受け入れを決めた自治体はない。北海道の幌延町などで「地層処分」の研究をしているところだが、あくまで研究なので、受け入れ先ではない。

300mから1kmの穴を掘って、そこに保存するのだが、さてこの高レベル放射性廃棄物（ガラス固化体、完全に無害になるには何年かかるか？）
10万年から100万年と言われている。ちなみに10万年前の地球にはネアンデルタール人がいた。その頃に仮に原発があったとして、埋められた核のゴミが、今ようやく無害になるという計算だ。

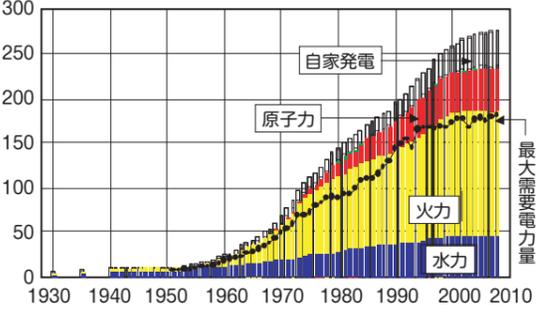
図④ 2008年度発電施設の量と実績



「原発止めても停電しません」

最後に「原発を止めたら停電する？」と関西電力が脅迫しているが、これも真つ赤なウソ。図④は、08年度、発電施設と量の実績。原発を優先的に稼働させていたため、火力、水力、自家発電にはまだ余裕がある。仮に原発の電力（青の部分）を全て火力に移行させたとしても、まだ余裕があるのだ。もちろん、火力発電もCO₂を出すので、長期的には風力、太陽光などの自然エネ

図⑤ 赤の原発部分をゼロにしても、まだ電力は足りている



出し、残りをガラスと混ぜて「ガラス固化体」にして冷やす。ちなみにこのガラス固化体、半径2メートル以内にならなくとも、人は死ぬ。それほど高い放射能を出している危険物質である。さて、ガラス固化体を六ヶ所村で何年冷やすか？
約50年と言われている。六ヶ所村はあくまで再処理工場と中間貯蔵なので、50年間冷やしたガラス固化体は、いよいよ「最終処分場」

「10万年保管してやっと無害に」

仮に国内で最終処分場が決まったとする。地下

モンゴルの砂漠の下に埋めたらどうか、という案も出たようだが、当然モンゴルに反対運動が巻き起こり、そもそも自国の核のゴミは自国で処分するのが世界の原理原則。よって、モンゴル案はダメになった。

人類の到達した現代科学を持ってしても「核のゴミ」の死の灰の処分方法は、まだ未確定である。そうすると解決策は？
今すぐ原発を止めて、核のゴミをこれ以上出さないこと、である。

「この冬も節電をお願いします」。テレビや新聞を流すのはなぜか？
それは「原発を止めたら停電しますよ」という根拠のない脅迫なのだ。
原発はCO₂を出さない、原発を止めたら停電する、どちらも悪質なウソである。だまされないようにしましょう。